



2019年5月23日

髪のおしさを総合スコア「美髪レベル」を設定 ～視覚的な髪のおしさを支配因子を解析～

株式会社ミルボン（代表取締役社長・佐藤龍二）は、一般女性 281 名に対する髪と頭皮の調査・解析をもとに、髪のおしさを総合的な評価項目として新たに「美髪レベル」を定義しました。

ミルボンの基礎研究では、髪や頭皮における様々なダメージ・エイジング現象に対する研究の他に、髪のお見た目や手触りについての感性研究も重要な研究課題の一つとして取り組んでいます。一般に肌に対しては「ハリ」や「キメ」といった要素をもとに総合的な肌状態を評価する手法が用いられますが、髪にはそのような総合評価スコアがありませんでした。今回、感性研究の一環として髪のおしさを総合スコア「美髪レベル」を設定し、年齢や美容習慣などの相関を網羅的に調査・解析することで、視覚的な髪のおしさを左右する因子を見出しました。その結果、「美髪レベル」を上げるポイントは「美容室へ頻繁に通うこと」であるとわかりました。

今回得られた知見は今後製品設計へ活かすとともに、一人一人の女性のおしさを実現する美容室でのカウンセリング手法への応用を目指し、業界発展に貢献してまいります。本内容は以下の通り外部発表しております。

【学会発表】

発表会 : FRAGRANCE JOURNAL 臨時増刊 No.22 (2019)

発表タイトル: 「美髪レベル」のグレーディングと支配因子の調査 -視覚的な髪のおしさを左右する消費者行動とは-

発表者 : 古田桃子、永見恵子、山下美香、鮫島奈々子、鈴田和之、伊藤廉

発表日 : 2019年2月23日刊行

【研究の背景】

「髪は女の命」とも言われるように、多くの女性は自身の髪を美しく保つことに大きな関心を寄せています。一人一人の女性に対し、それぞれのライフシーンにあったおしさへのアプローチを提案するためには、今のその人の状態を正しく評価することが欠かせません。ところが、肌に対して「ハリ」や「キメ」などの状態を機器計測によって評価し総合的なおしさをスコア化する技術が存在する一方で、髪のおしさを客観的・総合的に評価する手法は今までありませんでした。その原因としては、①ヘアカラーやパーマントウェーブ等の化学的な美容施術の普及によりヘアスタイルの多様化が進んでいること、②髪の状態を数値化する手法としては毛髪繊維 1 本 1 本の「強度」や「摩擦係数」といった物理的な特性を測定する方法が主流で、髪全体を測定する方法が乏しいこと、などが考えられます。

そこで今回ミルボンでは、281 名の女性の後ろ姿の写真をもとに髪のおしさを総合評価に挑戦し、年齢や美容習慣、機器計測で得られる様々はパラメーターとの相関を網羅的に調査しました。

【研究の成果】

インフォームドコンセントを得て試験に参加した 20 歳から 79 歳までの日本人女性 281 名の後ろ姿を撮影し、年齢や美容履歴とは切り離れた状態で視覚的なおしさを評価しました。総合スコアを「美髪レベル」として、7 名の評価者の協議によってグレーディングした結果、最も美しいと感じる群を美髪レベル 8、美しくないと感じる群を美髪レベル 1 として 8 段階でグレーディングすることができました(図 1)。

得られた美髪レベルの支配因子を調査するべく、「ツヤ感」や「まとまり感」などの 10 項目を超える官能評価値との相関関係を調べました。その結果全世代を通じて髪的美しさにとって重要なのは「ツヤがあること」「白髪が少ないこと」「エイジング毛(加齢により生じるうねり毛)が少ないこと」という 3 つの要素であることが分かりました。これらはいずれも年齢との関連が予想されるものであり、加齢とともに美髪レベルが低下することが示唆されました。ところが、年齢と美髪レベルの関係を調べたところ、加齢による低下傾向は認められるものの、20 代から 50 代の美髪レベルの分布の幅は広く、同年代間の髪的美しさに差が生じていることがわかりました(図 2)。このことから、適切な美容施術や日々の手入れを行うことで、同年代と比べ美髪レベルを高い状態に保つことができる可能性が示されます。

そこで、髪に関する意識・行動が表れる 100 項目を超えるアンケートを実施し、各世代で美髪に寄与する美容習慣を調査しました。特に 50 代における調査結果から、美髪レベルが 6~8 と高い群は、レベル 5 以下の群と比較して美容室に通う頻度が高いことがわかりました(図 3)。この時美容室への訪問 1 回あたりの利用金額については 2 つの群で差はなく、一度に多くのお金をかけるよりもこまめに美容室に通って髪の手入れを行うことが、50 代における美髪の秘訣であることが示されました。また、ロングヘアが多い 20 代においては、髪を「伸ばしっぱなし」にする女性も多くみられますが、美髪を保つためにはこまめにヘアカットに通い毛先の状態を整えることが重要であることもわかりました。

これらの結果が示唆することは、一人一人の女性に対し適切なアドバイスを行い美容習慣を変えていくことで、「今の私」の髪をより美しくしていくことのできる可能性がある、ということです。今後はすでに収集済みの数千人規模の後姿写真を用いて、官能評価結果や美容にまつわる行動と美髪レベルの関係性をより詳細に調査していく予定です。



《参考資料》

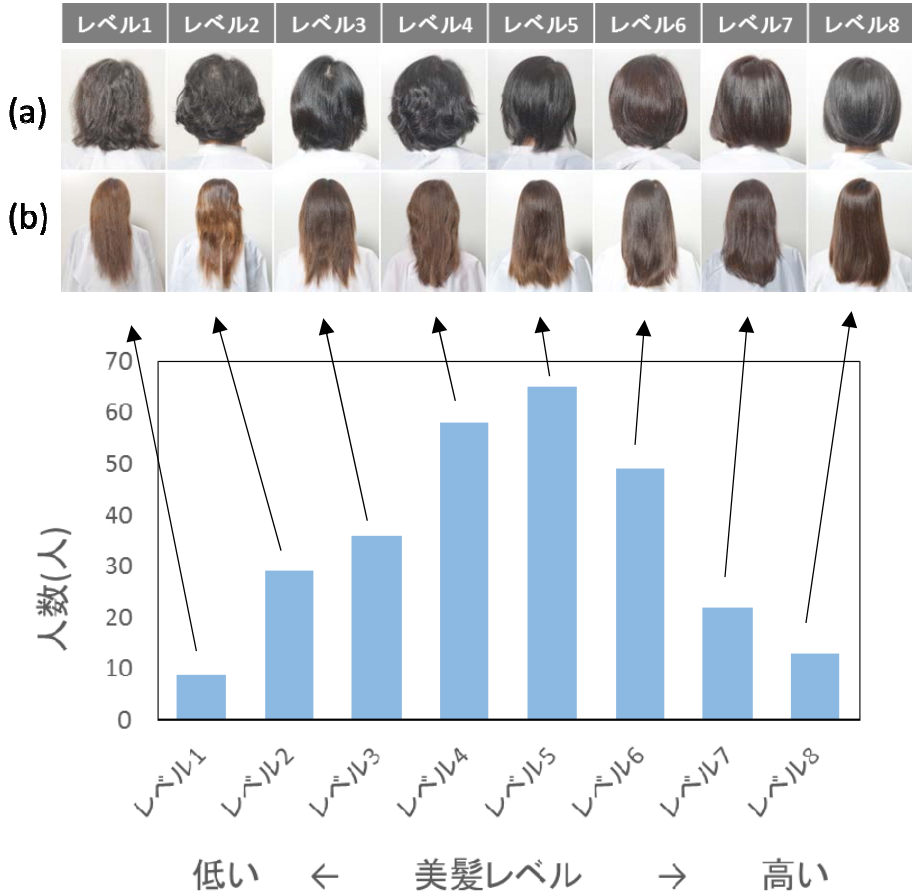


図1 281名の女性の美髪レベルの分布

各レベルの典型例を(a)明度の低いショートレングス、(b)明度の高いロングレングス、の2つのパターンで示す。

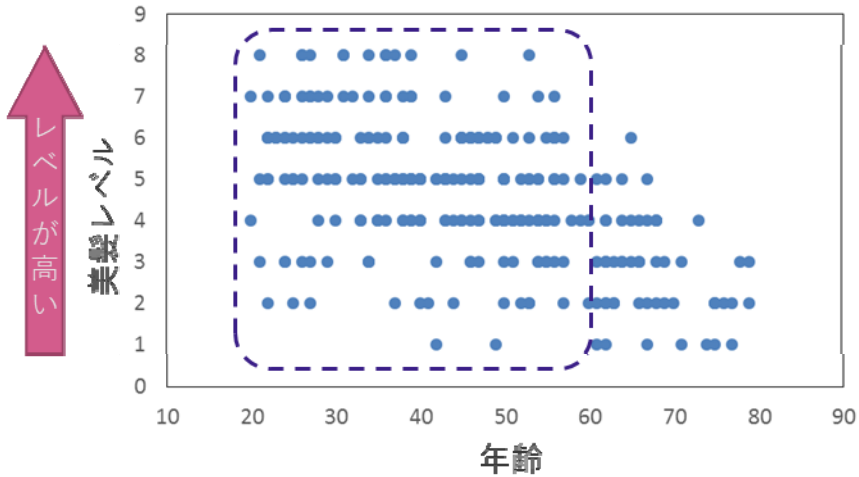


図2 年齢と美髪レベルの関係

年齢とともに美髪レベルは低下していく傾向があるが、破線で囲った20代から50代までは幅広く分布している。

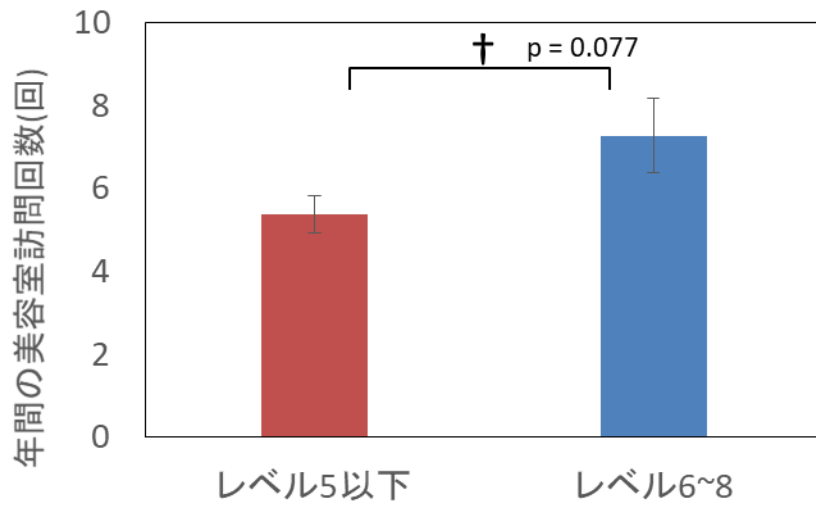


図3 50代女性の美髪レベルと年間の美容室への訪問回数の関係
レベル6~8の美髪な群は、レベル5以下の群に比べてこまめに美容室へ通う傾向がある。

■リリースに関するお問い合わせ先

株式会社ミルボン 広報室 東京都中央区京橋 2-2-1 京橋エドグラン
TEL 03-3517-3915 FAX 03-3273-3211

株式会社ミルボン／本社：東京都中央区、社長：佐藤龍二、証券コード：4919（東証1部）